

総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および10月2日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は2007年に都市郊外型の回復期リハビリテーション病院として開院した。以後、千葉県の中核病院としての役割を果たし、脳卒中地域連携の会や千葉県回復期リハビリテーション連携の会などの複数の連携会議の事務局を務めるなど、リハビリテーションを軸とした地域作りのリーダー的な存在となっている。リハビリテーション科専門医をチームリーダーとしたチームが、160床3病棟において、臨床・教育・研究の三位一体となった医療を実践している点は特記すべきであろう。さらに生活期リハビリテーション機能も充実しており、リハビリテーション特化型の短時間デイケアプログラムを展開している。県内でも人口が集中し、競争の強い地域において特徴的なリハビリテーション医療を推進するとともに、地域特性から退院後に自院でフォローしない患者をも包含しながら、地域包括ケアシステムの構築に中心的な役割を担っていくことが期待される。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

根拠に基づいた安全で質の高いリハビリテーション医療を謳った回復期リハビリテーション病棟の理念・基本方針は、病院の理念とも合致しており、職員や利用者に周知されている。365日充実したリハビリテーション・ケアを提供するために必要な各専門職が適切に配置されている。病棟運営に関しては、階層的な会議構成により、全3病棟で整合性を運用がなされ、決定事項の職員への周知も適切である。

安全確保に向けた体制については、医療安全対策委員会の委員で構成された4つの組織が設置され、安全対策に組織的に取り組んでいる。転倒・転落に関しては、院内基準による評価結果を多職種で共有し、成果を上げている。急変時対応にシミ

ュレーション研修も定期的実施されている。療養環境における防犯、離院・離棟防止、病室・トイレなどにおける評価に基づく安全性への配慮などは、適切に行われている。

リハビリテーションに関する臨床指標に関しては、TBRics という独自に開発したシステムによる体系的な収集の仕組みがあり、解析結果は研修会などで職員に周知されている。回復期リハビリテーションに関する教育・研修については、組織的に検討・策定・実施されており、ADL の適正評価のための仕組みも適切である。

急性期と回復期および維持期連携の事務局を複数務めるなど、地域連携体制の構築に主導的な役割を果たしている点も評価できる。在宅復帰後のリハビリテーション・ケア継続に向けて、自施設での短時間通所や障害別に特化したリハビリテーション提供は充実している。他施設でのフォロー患者の退院後生活情報の収集体制が整備されることも期待したい。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

7 名のリハビリテーション科専門医を含む 11 名の医師が病棟の診療に関わっており、疾患やリスク管理、チーム医療の実践、患者・家族に対する説明や指導を適切に行っている。医師による研究活動や専門医の育成等の取り組みは秀でている。

看護・介護職は、ケア場面で種々の実効性のある情報共有ツールを活用しながら、ケアを実践している。リハビリテーション時間以外においても、患者の活動性を高める協調的な取り組みが適切に行われている。

各療法士は標準的な評価に基づく目標達成のためのプログラム策定やその見直しを適切に行っている。各療法の評価結果等は院内情報システムで共有されている。活発な研究活動に基づく臨床実践は高く評価できる。

社会福祉士はリハビリテーション・ケアの進捗と患者・家族の生活状況や希望を踏まえた支援を適切に行っている。質向上のための認定資格取得への取り組みも評価できる。管理栄養士は、NSP (Nutrition, Swallowing, Pressure Sore) と命名されたチームの中で、個別的で効率的な栄養管理を適切に実施している。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院当日に多職種が ICF に基づいて生活機能を総合的に評価し、ADL の課題が適切に抽出されている。入院当日にリハビリテーション計画が作成され、医師により患者・家族に説明されている。1 日 7 単位以上の疾患別リハビリテーションが実施され、それ以外の時間には療法士と看護・介護職が協働して活動を高めるアクティビティを適切に提供している。実際のケア場面の情報共有については、いくつかの書面のツールや情報システムを用いてタイムリーに行われている。

チームカンファレンスは月 1 回実施され、定期的に課題の評価・検討が行われている。また、患者個別の障害像に応じたカンファレンスなども開催され、課題に対する評価や検討が適切に行われている。薬剤師は週 1 回の薬剤回診を行い、処方や剤形を適切に提案している。入院 1 週間以内に退院支援カンファレンスが開催され、退院支援フロー図で進捗状況を可視化しながら、早期から適切な退院支援が実

践されている。退院時に見込まれる ADL を踏まえた自主練習、環境設定、療養指導、サービス利用などが各職種により適切に提案されている。短時間型通所リハビリテーション、失語症デイケアや手のデイケアなど、障害に特化した生活期サービスの展開も評価できる。

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	II
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	II
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	II
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	II
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	II
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	II
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	II
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	II
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	II
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	II
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	II
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	II

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	Ⅱ
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	I
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	I
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	Ⅱ
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	Ⅱ
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	Ⅱ
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	Ⅱ
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	Ⅱ
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	Ⅱ